

民泊体験

～ひと・体験・ふるさとかから学ぶ～

教科・領域 総合的な学習の時間

和木町立和木中学校 2 学年

キャリア教育の観点

農業や漁業等の第一次産業を中心とした家業体験を通じて、望ましい勤労観や職業観を育むことをねらって実施する活動です。民泊先の方々や地域の方々との交流の中で、自らの生き方について考えるきっかけとなることもねらいとしています。

【人間関係形成・社会形成能力】【課題対応能力】

事前準備

一泊二日という短い日程をより有意義なものにするために、和木町と周防大島町の共通点と相違点という視点から、互いの歴史や産業等について調べ学習を行った。

民泊先の方も周防大島についての資料を用意してくださっており、共通の話題で話が弾んだ班もあった。



調べ学習

民泊体験のようす

民泊体験当日の入村式前に、まずはお世話になる周防大島町や民泊体験事業に携わる全ての方々への感謝の気持ちを込めて、周防大島町の海岸の清掃作業を行った。

海岸には、牡蠣養殖で使われるプラスチック製の部材が多く流れ着いており、他地域からの漂流物等が、流れ着いた地域の自然環境に大きな影響を与えていることについても学ぶことができた。

入村式後は、早速各班に分かれ、民泊受入先の方の支援のもと、家業体験が始まった。

漁で捕獲したタコを片手に満面の笑みを浮かべ「楽しい、本当に楽しい」と生徒が連呼していたことが今回の民泊体験の象徴的な場面であった。



海岸の清掃作業



漁業体験

どの班も漁業や柑橘園作業等、学校生活はもとより和木町内においても経験できない貴重な体験を行うことができ、心身共に満たされ、とても充実した2日間を送ることができた。

また、民泊受入家庭の方々温かさに包まれた時間を過ごすと共に、家業体験に御協力いただいた親戚や近所の方々とのふれあいから、人とのつながりの大切さを実感することもできたようである。

さらに、民泊体験という地域（ふるさと）の活性化をねらいとした事業を町として展開し、その事業に「受入先」という形で参画されている方々の姿から、地域貢献という生き方について考えるよい機会ともなった。

和木町で地域貢献という生き方を実践されている方々と生徒をつなげることで、ふるさとに関心を高めさせていきたいと考えている。

まとめ・発表会

参観日に各班の活動についての発表会を行った。各班の取組を共有するだけでなく、本校として初の試みでもあった民泊体験を保護者に報告する場でもあった。

保護者からも好評を博し、次年度以降の実施も予定している。

今後の課題

本事業は、前年度町内で実施した竹林整備と今年度終わりに実施予定の職場体験をつなぐ取組として位置付けている。

それぞれの取組を単発の行事にするのではなく、日常と行事、そして、行事と行事をつなげ、それぞれがもつ価値をより一層高めることで、望ましい勤労観や職業観の醸成を図っていきたい。



みかんの選別



鶏の世話



発表会



竹林整備